

※下線部分は複数の構成員から出された意見を示す。

1 外国人向けテレビ国際放送の充実強化

(1)外国人向けテレビ国際放送の実施体制

①組織、人材

- ・ 海外の優秀な人材をもっと多く登用するとよい。現地レポーターを活用することもとてもよい。
- ・ NHKの海外特派員が帰国した際に、もっと活用できる場を作るべき。
- ・ 特派員の数が減ると同時に、外国特派員のレベルが下がってきているように感じる。

②国内部門との連携

- ・ NHKの国内地上波やBS放送番組に字幕をつけて流すなど、国内地上波やBS番組をもっと国際放送に活用すべき。

③ターゲットの明確化

- ・ 日本そのものの発信力をいかに高めるかがポイント。ターゲットを明確にし、日本が何を発信していくのか明確にする必要がある。
- ・ NHKとしてどういった人が見ており、どう思われているのかというイメージを持つべき。どこでどれぐらいの人が視聴しているのか、何を期待しているのかについてのデータを揃えるべき。

これまでに出示された主な意見

③ターゲットの明確化(つづき)

- ・ NHKワールドはBBCやCNNを目指すのか、それともニッチでいくのかについて、議論が必要。
- ・ CCTVが、なぜ視聴率を保てるのかを考えると、視聴者の水準がどの辺にあるのかを踏まえる必要がある。CCTVを過小評価すべきではない。
- ・ NHKには表現の自由、報道の自由が確保されていることがCCTVと決定的に異なる。そのことを世界に示すことにも意味がある。その上で、NHKの主体的自由を確保しつつ、中韓による反日工作の喧伝について日本がフェアで有効な反論をできていない点を踏まえ、コンテンツについても議論すべき。
- ・ 国際放送とは何かを考えると、各国の国際放送が、国益をどう発信するかという視点の違いがある。
- ・ 日本発信の国際ニュースが、日本だけでなくアジア全体をカバーしていることを強みにすべき。
- ・ NHKワールドは、完全なニュースチャンネルにした方がよい。
- ・ もっと日本という国の文化や政治を見せた方がよい。日本がもっと世界から好意を持たれるような番組構成にしていくべき。

これまでに出示された主な意見

④多言語化・字幕付与

- ・ 多言語化は自動翻訳を使ったネット配信により可能になるのではないか。自動翻訳でリソースと翻訳の責任分界ができ、翻訳のための追加コストもなくなる。
- ・ 無理に英語音声による放送をするのではなく、音声は日本語にして英語の字幕をつければよい。コスト削減にもつながる。
- ・ 海外のホテルのロビーでは音声が出ておらず字幕が必要な場面もある。さらに、字幕データなら音声に変換もできる。
- ・ 英語字幕は、ずっと画面を見ていなければならない点が問題。

⑤世界の現地放送局との連携

- ・ 世界の現地主要メディアやネットも含めた広い意味でのメディアミックスを考え、その上で国際放送のあり方を考えていくべき。

⑥インターネットの活用

- ・ ネット配信の強化が必要。また、メディアミックスも考えていくべき。
- ・ 情報番組はショートでいいので世界へ放送で発信し、深い部分についてはネットを利用し連動させていくのがよい。

これまでに出示された主な意見

⑦受信環境整備

- ・ 外国に行ってホテルでNHKが映らないのは寂しい。リアルタイムでテレビを見るとしたらホテル。
- ・ 日本国内でもNHKワールドを多くの人に見てもらい、意見を聴くシステムを作ることがさらなる発展につながる。

⑧認知度向上

- ・ NHKワールドの国内認知度は依然低い。衛星放送を活用して、国内で放送すれば認知度向上に役立つ。
- ・ 中国のCCTV、中東のアルジャジーラ等に比べ存在感が低い。

(2)外国人向けテレビ国際放送の財源・組織

- ・ NHKワールドを世界的なものにしていくにはかなりのコストがかかる。国の関与が必要であり、どのように国が関わるか議論すべき。
- ・ 予算が必要なのであれば、予算措置を進める必要がある。

これまでに出示された主な意見

2. NHKの国内コンテンツの海外展開の促進

- ・ 日本の四季や自然など、英語にすべき番組はたくさんある。
- ・ 世界への番組販売は、日本より韓国の方が相当多い。ポップカルチャーも含めてどういうものを外に出していくか考えるべき。
- ・ 放送コンテンツの海外展開で、日本は遅れている。どう強化していくのか議論をしていくべき。